

コラム

アブダビ ZADCO 権益の延長から見てくるもの

戦略研究ユニット

国際情勢分析第一グループ

研究主幹 松本 卓

日本の石油開発会社が1月21日、アラブ首長国連邦アブダビ首長国において海上油田権益を15年延長した、と発表した。筆者は2018年に権益期限を迎えるADMA-OPCOの権益のことだと疑わなかった。ところが発表記事を読んでいくうちに、2026年に権益期限を迎えるZADCOの権益のことであった。

今、アブダビ首長国の油田権益でホットな話題になっているのは、本年1月に権益期限が切れたADCOの陸上油田権益である。昨年の春先、国営石油のADNOCは王族によって構成された最高石油評議会（SPC）に「現状権益構成のまま1年延長」を具申したが、SPCはこれを否決したため、期限切れは時間の問題となっていた。案の定、権益期限を迎えてADNOCはADCO利権の100%権益保有者とならざるを得なくなり、これまで権益の40%分の生産原油を販売していた石油メジャーの分もADNOCが引き継ぐことになった。なぜ権益期限内に決着がつかなかったのか、いろいろな理由が飛び交っている。

まず、権益付与の最終決定権者がSPCであることだ。簡単に言うと、油田開発の技術的問題を最優先に考えたいADNOCと、利権を戦略的な道具にしようとするSPCという構図だ。即ち、ADNOCは油田を最も効率よく開発し、原油生産量を最大限に持っていくための技術を持った石油会社を選択することを優先したいのに対し、SPCは油田を重要な国家財産と位置付け、外敵から守る必要から軍事力を持った国の石油会社を選択したい。併せてSPCは油田開発および生産のための経済的支出が最も少ない方法を選択したかった。

次に、既存権益者による原油生産マージン値上げ圧力がADNOCの頭を悩ませた。現在バレル当たり1ドルとされているが、これは原油価格が10ドル程度の時の話であり、かつ今後は高度な生産技術を使って油田を開発していかなければならないため1ドルでは割に合わないというのだ。また、既存権益者の中にも要求する価格レベルに温度差があったと言われている。

このためADNOCは、日量150万バレルを超えるADCO油田を分割する案や、新規参入者の選択肢としてSPCの意向を反映させるとともに、原油販売先を確保するためアジアの消費国の石油会社にも入札資格を与えるなど、さまざまな試みを行った。実は、これらの試みが、どんどん権益更改を遅らせていったともいえる。

さて、それなのに何故、目先のADCOでもなく、次の権益期限を迎えるADMA-OPCOでもなく、期限の到来が一番遅いZADCO権益の更新だったのであろうか。そこでADNOC

の立場で考えてみたい。

① ADCO 利権更改失敗の反省

まず、今回の ADCO 権益更改では、ADNOC による最初の着手が遅すぎたと指摘されている。勿論、2011年6月25日に ADNOC の総裁交代劇があったのも一因であろうが、過去2008年10月の GASCO 権益更改も期限に間に合わず、決着が2009年3月までずれ込んだことを考えると、準備が甘かったと言わざるを得ないであろう。

また、膠着状態に陥った ADCO 利権に関しては、新たな起爆剤が必要となる。それは、既存権益者が要求しているマージン値上げを含む財務条件の改善に対する打開策であり、SPC が拘る経済的支出が最も少ない方法への打開策である必要があった。ADCO 利権は BP、Shell、Total、ExxonMobil（あと形式的に Partex）が、ADMA-OPCO は BP、Total および JODCO が、ZADCO は ExxonMobil と JODCO が保有している。権益比率も ADCO 各社と ADMA-OPCO 各社はほぼ同率だが、幸いにも ZADCO は交渉相手が少ないうえに ExxonMobil の28%に対し JODCO は12%と差がついており、SPC が承認する範囲内で ExxonMobil と財務条件が折り合えば、全ての権益更改を推進する起爆剤になり得るのだ。

② これまでの ADCO 権益保有者への牽制

次に、現在も宙ぶらりの状態である ADCO 権益だが、ZADCO の権益延長はマージン値上げを含む財務条件の改善を要求している既存権益者に楔を打ち込んだことになる。即ち、ADCO の既存権益保有者でもある ExxonMobil が新たな ZADCO 権益の財務条件を飲んだことによって、ExxonMobil 以外の既存権益者（例えば Shell や Total）が更なる改善を要求しても、ADNOC がそれを拒否する口実を得たのである。したがって、既存・新規参入者にとって財務条件の改善を議論することが極めて難しくなったといえる。

③ ADMA-OPCO 権益保有者への牽制

このことは2018年に権益期限を迎える ADMA-OPCO の権益保有者への牽制にも通じる。しのごの言ったら ADCO のよう（期限切れで一時的接收）になる。黙って飲めば ZADCO のように決着できる可能性がある。それにしても、ADMA-OPCO 権益保有者には、ZADCO 権益が新規参入者を許さず延長できたのは驚きであったに違いない。少なくとも ADCO と同じように新規参入者を絡めて権益構成が変わることを想定していたに違いないからである。

④ ZADCO 権益保有者のアブダビ首長国への貢献に対する高い評価

さて、このたびの ZADCO 権益延長には、JODCO をはじめとする日本が一丸となってアブダビ首長国に貢献してきたからこそ成し得たものであり、これらの貢献が同首長国の石油業界ならびに王族の間で高く評価された賜物であることは間違いないであろう。加えて

日本国政府首脳による同国訪問や、政府機関による同国支援もプラス要素に働いたであろうことは言うまでもない。

ZADCO 権益延長を踏まえて、今後の ADCO 権益の最終決着ならびに ADMA-OPCO 権益更改の行方に目が離せなくなる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp